

「日中戦争のもう一つの戦後；撫順・太原の戦犯たちの生き様をめぐって」

— 2012年4月21日 愛知大学 研究会での報告

中央大学名誉教授・撫順の奇蹟を受け継ぐ会代表 姫田光義

はじめに；「撫順の奇蹟」とは何か

一；戦後日中関係の狭間に生きた日本人戦犯たち

- 1；日中戦争後の満州：シベリア抑留にて
- 2；撫順戦犯管理所にて—いわゆる「鬼から人へ」の翻身過程
- 3；中国共産党の捕虜政策と冷戦体制下＝中華人民共和国での戦犯政策
- 4；起訴猶予・無罪放免から帰国へ

二；「中国帰還者連絡会」；戦後の日本人の一つの生き様—特異性と普遍性、あるいは断絶性と連続性

- 1；冷戦体制下の帰国；偏見（「洗脳」という言葉）、差別の中での組織化
- 2；文化大革命における分裂を乗り越えて
- 3；「解散」と「継承（受け継ぐ）」

三；なぜ私たちは今、「撫順の奇蹟」を「受け継ぐ」必要があるのか

- ・侵略戦争と加害の知識・意識・認識の希薄化
- ・歴史研究・歴史教育、そして歴史認識問題—日中両国におけるファナティックなナショナリズムの台頭—実証研究の重視のために
- ・日中関係・日中友好のために

参考文献（大量の文献のうち一部のみ紹介）

- ・中国帰還者連絡会訳編『覚醒—撫順戦犯管理所の六年』（1995年 新風書房）
- ・『帰ってきた戦犯たちの後半生—中帰連の40年』（1996年 新風書房）
- ・新井利男・藤原彰編『侵略の証言』（1999年、岩波書店）
- ・『中国侵略の証言者たち』（2010年、岩波新書）が一番読みやすいので、書名だけ紹介
- ・富永正三『あるB・C級戦犯の戦後史—ほんとうの戦争責任とは何か』（2010年 影書房）
- ・「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」機関誌『中帰連』（2012年5月段階で第50号まで）